

## 太田 敏一

(大阪西南RC)

2009年6月21日から24日にかけて、英国バーミンガム市にて第100回国際ロータリー一年次大会が開催されました。会場は市の中心から少し離れた、とても緑美しいナショナル・エギジブション・センターにて行われました。21日に午前、午後と二回開会式があり、日本人会員の多くは午後の部に参加したもようです。英国で国際大会が開催されるのは25年ぶり、前回もバーミンガム市でした。

開会式では、East meets West、そして End Polio が強調され、ポリオ撲滅への最大功労者賞として登場された国連事務総長のバン・キムン氏、そしてRI会長・李東建氏と壇上で固い握手を交わされ、アジア（コリアン）パワーを印象づけた始まりでした。続いて、韓国の伝統舞踊、英国学生によるテコンドーのパフォー

マンス等、とさながら韓国大会といった様子でした。続いて、今大会委員長の田中作次氏（第2770地区・八潮RC）が会運営功労者皆様の労をねぎらう言葉を贈り、そして李RI会長の社会・経済貢献、そして理想の父親像等が紹介され、拍手万雷となりました。

昨年大阪そねぎRCの中会員が提唱された「もっと分科会にも出席を」が、今回実践されていたのか否かを見届けることができず、自分自身も2日目にバーミンガムを去らねばならなかったのが少々心残りでありました。

参加者総数は約17,000人、日本人登録者は1,400人とのことでありましたが、新型インフルエンザの影響で、実際現地にまで足を運ばれた人数は10%ほど少なかったのではと見られています。



西野 博子  
(大阪イブニングRC)

写真撮影

濱野 和子 吉崎 広江  
(大阪イブニングRC) (東大阪東RC)



会場入口(吉崎さん撮影)

2009年6月19日、英国バーミンガムで開催される第100回国際ロータリーの世界大会に参加するため、クラブの仲間4名とバーミンガム駅に降り立った。例年見る派手さはなく、小さな机とロータリーのベストを着たロータリアンが数名我々の到着を歓迎してくれた。我々はロンドンで宮崎、熊本からのロータリアンに出会ったが、ほとんど日本人には出会わず、これも不景気の影響か新型インフルエンザの影響かと思われた。本大会の参加者は約20,000人だと言うことであった。翌20日、登録キットの受け取りと友愛の家に出向くため電車でNEC Hallに移動した。夕刻からキャサリン・ジェンキンスとバーミンガム市交響楽団のコンサートに参加し、彼女の美しい声とユーモアに9,000人の観客は魅了された。

開会本会議では米国ハワイ州からのエド・布田事務局長の司会と挨拶で始まり、「ポリオ撲滅」に対する熱気の籠もったスピーチがあり、翌日の地方紙の一面記事で取り上げられていた。

この後、韓国の少年少女による合唱、韓国舞踊、地元の青年達によるテコンドーの披露に引き続き150余国の国旗入場が始まった。我々は日の丸入場に声援を送った。韓国・イギリスの国歌演奏の後、田中作次大会委員長、地元市議会議員の歓迎の挨拶、李東建RI会長家族の紹介、李会長の基調講演が行われた。その後、韓国の太鼓を用いた舞踊やバッキンガム宮殿衛兵による行進など国際色豊かな余興が続いた。夕刻からは、Warwick Castleでのイベントに参加した。広い庭園には、ハンバーガーや飲み物の屋台が並び、それを得るための長い行列が出来ていた。そこで大谷ガバナーご夫妻にお目にかかり記念撮影などを行った。ブラジルからのロータリアンには日系人の老人ホームへの支援を地区として考えて欲しいと熱心に勧誘されたり、外国のロータリアンとも親交を深めることが出来た。夜10時前、決して手際がよいとは云えないバスの配車に従いホテルへと帰館した。



ワーウィック城(濱野さん撮影)



大谷ガバナーと大阪イブニングRCの皆さん(濱野さん撮影)



大会会場  
(濱野さん撮影)

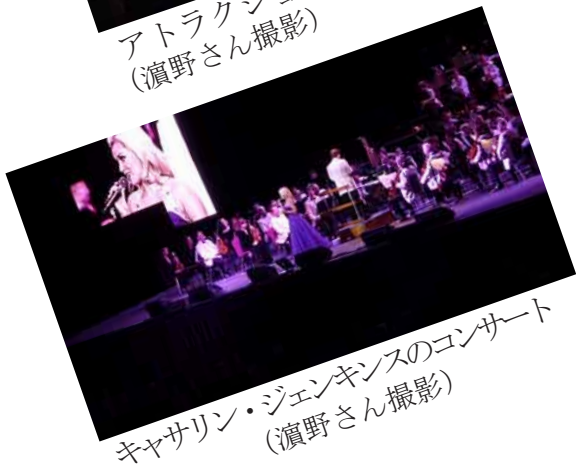
会場外観  
(濱野さん撮影)



アトラクション  
(濱野さん撮影)



大会会場  
(吉崎さん撮影)



キャサリン・ジェンキンスのコンサート  
(濱野さん撮影)

東大阪東RCの  
皆さん  
(吉崎さん撮影)



友愛の家 民族衣装のロータリアン  
(濱野さん撮影)



日本人朝食会 (吉崎さん撮影)